

ハイパワー釜土型

ユニジェット釜土型

L型

M型

取扱注意書

**この商品は
業務用です!**

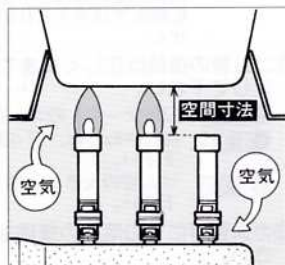
設置上の注意

①当器具銘板の表示ガス(ガスグループ)とご使用になるガスと同一であることをご確認の上、設置して下さい。

- ①注1 銘板は器具の混合管部分に貼付してあります。
- ①注2 ガス種が異なる時は、ご使用にならずに器具をお取替え下さい。
- ①注3 プロパンガス(LP)ご使用の際は、ガス圧表示(注1)に従って低圧の範囲内にてご使用下さい。

②当器種は釜土専用タイプです。必ず不燃構造のステンレス製釜土、又は耐火モルタル製釜土の中にセットしてご使用下さい。尚、バーナーヘッドから鍋底までの空間寸法は下記の通りです。

ハイパワー釜土型	150~170mm
ユニジェット L型	100~120mm
ユニジェット M型	50~70mm



サントクの商品は業務用として設計されておりますので、普通の家庭用コンロより火力が強力です!!この事を常に意識していただき、調理中にその場を離れたり、お子様に使わせたりするのは危険ですので止めて下さい。

設置上の注意

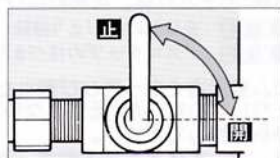
- ③釜土の中の燃焼室部分は給排気が充分にとれる構造(出来ればバーナーを置く底部は、下からの空気の流通が充分とれる開放構造)でバーナーのコック部分は釜土の外に出るように設置して下さい。
- ④バーナーの全長の変更、あるいは途中を曲げたりの配管変更は可能です。但し、その際のパイプ取替え等の工事では、接続等からのガスもれが起きないようにガス止接着には充分注意して下さい。
- ⑤ゴム管の接続は正しく奥まで差込み、ゴム管止めてシッカリ固定して下さい。
 - ①注1 『JISマーク』のゴム管(ガス用)をご使用下さい。
 - ①注2 折れやねじれ、引っ張り等ないよう必要限度の長さでご使用下さい。
 - ①注3 ゴム管の太さは、器具ゴム管口の太さと同じのものをご使用下さい。
- ⑥ガス管等にての直接の接続は、ガス工業者に依頼して行って下さい。
- ⑦このタイプの炎口は煮こぼれ、目づまりしやすいタイプです。上からの煮こぼれが直接炎口に落ちない構造の釜土のみにて、設置ご使用下さい。煮こぼれにより、簡単に燃焼不良を生じ危険ですから、くれぐれもご注意ください。

設置上の不明な点がございましたら販売店か直接当社までお問合せ下さい。

使用上の注意

①ご使用前の確認と準備を正しく行って下さい。

- ①注1 ゴム管の接続状態に異常がないか確認下さい。
- ①注2 器具のガスコックが閉じていることを確認の上、元コックを開けて下さい。



②点火はマッチ等で、メインバーナーに着火させて下さい。

- ①注1 メインバーナーへの着火時は調理に使用する鍋等を載せて行って下さい。
- ①注2 初めて使用する時、しばらく使用しなかった時等にはゴム管内の空気が入っておりますので、空気抜きの為に点火作を繰返して下さい。

③空気調整は固定式ですので、日常の空気調整は行えません。従って最初の器具設置時に点火テストを行って下さい。

- ①注1 炎が飛んで着火しにくい場合や先端に黄色い炎が出る場合は、供給ガスの圧力や供給量、ガス種を再度チェックし、正しいガスの供給状態を確認して下さい。
- ①注2 火力の調整は原則として弱火等は出来ません。基本的にはメインコックを全開か、消すかのどちらかで弱火状態を5~10分以上続けますと、炎口部分等にススがたまるので充分ご注意ください。

④日常使用時に、炎の状態に変化が起きてきた時は「点検・お手入れの注意」に従って、点検・お手入れを行って下さい。

⑤ご使用中は、危険ですので器具のそばを離れないで下さい。

⑥ご使用中、及び直後は器具の温度が高くなりますので、ガスコック以外は触れないで下さい。

⑦狭い部屋、締め切った部屋での使用や長時間の使用時には必ず部屋の換気が必要です。時々窓を開けたり、換気扇を回して換気を行って下さい。尚、窓のない部屋には必ず換気口を設けて下さい。

⑧消火時はバーナーコックを完全に閉じ、必ず消火を確認し、使用後は必ずガスの元コックも閉めて下さい。

日常の点検・お手入れの注意

- ①点検・お手入れは、器具が充分に冷えてから行って下さい。
- ②点検・お手入れは、定期的に行って下さい。

- ①注1 炎口部の目づまり掃除 日常的に毎日くらい
- ①注2 ノズルチップの目づまり掃除 一週間に一回くらい

③ゴム管が古くなってひび割れたり、折れ曲がったり、器具に触れていたりしていないか。元コックやゴム管口に充分に差込まれているか、時折点検して下さい。

④バーナー本体の周囲にたまった煮こぼれ汚れは、常に早めに除去して下さい。気化管が腐蝕しやすくなり、ガスもれの原因にもなります。

器具の異常と対処方法

こんな異常の時	考えられる原因	対処方法
気化管、ジョイント、前管からのガスもれ		販売店へ連絡を
コックからのガスもれ	グリスの消耗	グリスを補充
	コックの柄子の下のネジのゆるみ	ネジを締める
炎のぼらつき燃焼や炎口部分にススがたまる	炎口部分の煮こぼれ、目づまり	炎口部分を金ブラシで掃除
	ノズルチップの煮こぼれ、目づまり	ノズルチップを細い針金等で掃除
燃焼不良	コンロの周囲を開いたりして空気が流れない	コンロの周囲に空気の流通路を常時確保する

ご使用中にご不審な点がございましたら直ちに使用を中止し、点検をしていただいた上で、販売店か当社までご連絡下さい。